

議会報告会実施報告書

開催日時	平成29年11月11日	開催会場	春里公民館
出席議員	酒井正司 板津博之 野呂和久 田原理香 天羽良明 大平伸二 中村 悟 山田喜弘 伊藤 壽 出口忠雄		
班長	伊藤 壽		
参加者数	32人		
実施内容	議会広報紙「議会のトビラ」により主に平成28年度決算について説明の後、今回のテーマである「コミュニティセンター化について」をはじめ、その他の課題についても意見交換を行った。		
質疑および 主な意見等	<p><1グループ> 報告者 <u>酒井 正司</u> 記録者 <u>板津 博之</u> <u>テーマ</u> 「コミュニティセンター化について」 「地区センターについて【テーマ】」 1グループに参加された方はまだ公民館の地区センターへの移行について知らなかった。よって、特に意見は出なかったが、名称が「地区センター」に変わることに。営利目的での使用が出来るようになること。飲食が出来るようになることなどについて担当議員から説明をした。 「地区センターへの移行について（周知不足）」 地区センターへの移行については、市民への周知が不足していると感じた。執行部に対しては、来年の4月までにあらゆる機会を利用して市民への周知を徹底して欲しい。</p> <p>『総務企画委員会所管分』 「市政見学バスについて【要望】」 「戦国城跡めぐり」などに自治会の老人会などで市政見学バスを貸し切って見学に行けるようにして欲しい。 「防災行政無線について【意見】」 下恵土地区に住んでいるが、平常時でもハウリングが起きて防災無線が聞こえ難い。小さい自治会で自治会員には75歳以上の高齢者が多く、実際に災害が発生した時に非難させることが出来るかどうか不安を感じる。 「防災訓練について【意見】」 春里地区では、防災訓練で黄色い旗を使用して安否確認をしているので、独居世帯などでもすぐに安否確認が出来る。是非他の地区でもやってもらいたい。 「ハザードマップのメンテナンス反映について【意見】」 春里地区では自治会単位で自主防災組織を組織してハザードマップの点検を行っている。「わが家のハザードマップ」も定期的に危険箇所などについて点検を行い、避難ルートの確認など「生きた情報」を地域全体で反映していくことが重要だと思う。 『教育福祉委員会所管分』</p>		

「小児科が不足していることについて【意見・要望】」

可児市では「住みごこち一番可児」を掲げ、若い世代や子育て世代が住みやすいまちを作ることを目的に様々な取り組みをしているが、小児科については開業医による診察と、可児とうのう病院の非常勤医師による診察しか受けられず、入院できる病院はありません。岐阜医療科学大学が2年後に開設されるとのことだが、現状では産科の実習を受けられるような環境ではないので、小児科医の常駐化や夜間の小児科診察体制を整えて欲しい。

『その他』

「議会のトビラについて【意見・要望】」

「議会のトビラ」は若い人（世代）にとっては堅苦しい内容で、なかなか読もうと思えない。若い人にも読みやすい（わかりやすい）内容にして欲しい。

<2グループ> 報告者 野呂 和久 記録者 田原 理香

『総務企画委員会所管分』

「台風情報の伝達方法について」

- ・すぐメールにて
- ・自治会で防災用に配布されたラジオにて
- ・可児市の広報用スピーカーは聞こえにくい、確実に届くよう各戸に有線放送があればいいのに。

『建設市民委員会所管分』

「自治会活動と地区の区域について」

（長洞や室原にお住まいの方から）

- ・若い中間世代がおらず「地域の存続の危機」である。果たして地区のしごとがどこまでやれるのか、自治会活動も危ぶまれる。そのためにも地区の区分けを考えて欲しい

「農地転用について」

（長洞や室原にお住まいの方から）

- ・外部からの入居が望まれるが、そうした土地がない。簡単に農地を外し宅地にできるよう考えてもらえないか。

「地域での若い世代の負担について」

（長洞や室原にお住まいの方から）

- ・せめて若い世代に他所の地区に住むより地元にと頼むのだが、地区のみんなから頼られてしまい、負担が多くなることから敬遠されてしまうのが現状である。

「豪雨対策について」

（矢戸にお住いの消防団の方から）

- ・横市川、矢戸川、室原川の三本の川があるが、大雨のときは、越水する箇所は決まっている。災害を想定して、対処して欲しい
- ・大雨での土砂流出に、側溝は機能していない、同様に見直し対処して欲しい。

『教育福祉委員会所管分』

「通学問題について」

(清水が丘にお住まいの方から)

- ・小学校までが遠すぎる。コミュニティバスは使えないだろうか。

『その他』

参加者全員から

- ・可児は住み心地よくいいところで大好きです。

< 3グループ > 報告者 天羽良明 記録者 大平伸二

テーマ「コミュニティセンター化について」

「地区センター移行への説明について」

質) 地区センター化への説明資料がない。

質) 市民への説明がない。今回、このテーマで意見交換するのであれば市の担当課が来て説明をするべきではないか。

答弁) 今回の地区センター化に向けての説明が市民へ届いていないことは今後市民の皆様へ丁寧にしていく取り組みをしていき、また地区センターは公民館法がとれて幅広い利用をして頂けます。

「申込について」

質) スマホやメール等でも申込ができるのか。

質) 当日申し込みも受け付けてもらえるか

答) 申込については当日も受け付け、定期利用団体は4カ月前からの特典もあり今までの申請は2カ月前から2日前でしたが3カ月前から当日受付となります。スマホ等の受付は今後検討します。

「地区センターの取り組みについて」

質) 市の地区センター化への取り組みと市民への説明に疑問を感じるが?

答) まず地区センターと公民館の違いは公民館法で利用制限があった飲食や販売目的にも利用でき幅広い利用が出来るようになります。説明は今後市の広報や説明会等で周知していく。

「利用率について」

質) 利用率だけの問題ではないでは?

答) 市内には14か所の公民館と1つの分館があり近隣の市町村と比べても多くあり地域の防災も含めた大切な拠点です。しかしながら地域により利用率がことなり15か所をより利用して頂くための取り組みです。

『建設市民委員会所管分』

「駅前子育て施設について」

質) 駅前子育て施設も公民館(地区センター)も図書館を充実してほしい子供の居場所づくりのためにも考えていただきたい。

答) いいご提案を頂き今後の取り組みに活かしていきます。

『教育福祉委員会所管分』

「駅前子育て施設について」【再掲】

質) 駅前子育て施設も公民館(地区センター)も図書館を充実してほしい子供の居場所づくりのためにも考えていただきたい。

答) いいご提案を頂き今後の取り組みに生かしていきます。

<4グループ> 報告者 中村 悟 記録者 山田喜弘

テーマ「コミュニティセンター化について」

- ・当日予約当日使用を認めて欲しい。
- ・ボランティア保険を活用しながら、子どもの居場所づくりにできないか。
- ・空室状況をWEBで見られるようにして欲しい。空室状況を確認して申し込みをしたい。
- ・事前登録団体を市全体で共有し、一度登録をすればどこの地区センターでも利用できるようにしてほしい。地区センター毎は不便である。

『建設市民委員会所管分』

「鳥獣被害防止について」

春里地区でも鳥獣被害に困っている。対策を進めて欲しい。

「図書館について」

図書館を充実して欲しい。(トイレが和式で困る。駐車場も含めて狭い。人気の本が順番待ちで借りられない)

『教育福祉委員会所管分』

「市の難病補助制について」

原因がはっきりしなくても困っている人がいる。難病だが認定されていない人への補助制度を作って欲しい。市内で使える本市のkマナーのようなもので補助している自治体もある。考えて欲しい。

「学童保育について」

地域の公民館でできないか。

「保育士登録バンク制度について」

御嵩町のように預かる園児の数に応じて、フリーの保育士が保育園で勤務できるようにして欲しい。それにより、短時間の勤務でも可能となるようにして欲しい。

<5グループ> 報告者 伊藤 壽 記録者 出口忠雄

テーマ「コミュニティセンター化について」

Q) 公民館のコミセン化はどうして行うのかその必要性は、現状で不都合があるのか。

A) 現在規制されている基準緩和を図りより柔軟な対応により営利目的・物販ができるようになる。

Q) 現在利用者に不利益(デメリット)とならないか。

A) 影響が出ないようにする、またコミセン化により現状が大きく変わることはない。

Q) 公民館利用時の際別途負担の冷暖房費についてどうなるのか。

A) コミセン化後は利用料に含まれた料金設定となる。

Q) 現在利用者の利用予約について、現状より利用しづらくなれないか。

A) 団体登録を行うことにより優先的に利用予約が可

『総務企画委員会所管分』

「災害情報について」

情報伝達が詳細に伝わらない避難時の判断に支障をきたす。

『建設市民委員会所管分』

「道路渋滞について」

坂戸ホームセンター付近の道路渋滞により横断が大変である何とかしてほしい。

「花いっぱい運動について」

平成28年度に比べて平成29年度は花の配布株が減少したが如何なる理由によるのか。

平成29年11月22日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 春里公民館会場 班長 伊藤 壽